

第3回テーマ：六甲山の森づくり



森林整備事務所

講演内容

- (1) 森林
林業・森林・林学
(森林科学)
- (2) 六甲山の緑化と活用
～六甲山の緑を育てる
六甲山の100年
そしてこれからの100年



講師：高橋 敬三さん

プロフィール

昭和21年生まれ 神戸・西宮育ち
鳥取大学大学院卒業後神戸
市就職、森林整備事務所勤務
平成14年より4月から
神戸市建設局公園砂防部

実施日：平成15年6月21日(土) 午後1時～4時
場所：六甲山自然保護センター内 レクチャールーム

梅雨の晴れ間で定員一杯の盛況

この日は梅雨時に珍しい好天に恵まれ、記念碑台と自然保護センターを訪ねてくる人が多かった。「六甲山の森づくり」という格好のテーマや講師の高橋さんに惹かれてか、市民セミナーへの参加者も32名となり、定員の30名を越えた。準備した資料が不足したり、当日の参加申し込みを受け入れられなかったり、予想以上の盛況に戸惑った。募集定員を増やすことを考慮する弾みを与えていただいた。



講演に聞き入る参加者

森づくりにかける高橋さんの情熱

神戸市に採用後、公園緑地部緑地課自然公園係(今の森林整備事務所)に配属されて六甲山を歩き回った青年時代、そして今、同事務所の所長として100年の歴史を踏まえて六甲山のこれからの100年を構想されている。高橋さんにとっては六甲山の森づくりはまさにライフワークだ。一貫して大好きな六甲山に関わってこれたのは幸せなことでもあり、そこに打ち込まれる深い情熱には感動を覚える。

六甲山の森づくりの課題を知った

六甲山の100年におよぶ植林、治山の歴史を紹介していただいた。戦国時代の禿山、明治中期の居留外国人の開発、「森林美学」を踏まえた植林の開始、昭和13年の大水害後の砂防、戦後の大規模植林など、六甲山が緑に包まれるようになった経緯を見渡すことができた。禿山に人の手で緑を回復した世界的にも誇れる植林活動。



森づくりの活動

これからは「(優良な森林を育てるために)木を伐って伐って伐りまくる」ことも含めて、楽しめる、そしてより豊かな六甲山の森をつくる課題に直面している。

専門家揃いで論議が賑わった

国土交通省六甲砂防事務所長の星野さん、神戸県民局県土整備部の釜谷さんなど行政の専門家。県立人と自然の博物館の鈴木さん、兵庫生物学会会長の白岩さん、兵庫県の生活創造センター所長の西川さんなど研究者や教育関係者が参加された。ブナを植える会やひょうご森の倶楽部、自然観察指導員の常連の方々。間伐材の活用や自然環境の保全に見識をお持ちの方など、多彩な顔ぶれであった。講師とのやりとり、参加者同士へと活発に論議が交わされた。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局
兵庫県立人と自然の博物館



テーマ:六甲山の森づくり



第3回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 講演準備: 13:00~13:15
2. あいさつ: 13:15~13:20
3. 講演: 13:20~14:30
4. 質疑応答: 14:30~15:20
5. 懇談会: 15:40~16:10

講演

- (1) 森林
林業・森林・林学(森林科学)
- (2) 六甲山の緑化と活用
~六甲山の緑を育てる
六甲山の100年 そしてこれからの100年

- ・六甲山の森を育てる
- ・大規模植林の開始など
- ・六甲山グリーンベルトなど
- ・市民の参画と協働

講演のあいさつ(高橋敬三さん)



高橋敬三さん

今日は森の達人がたくさんおられて、僕なんかじゃしゃべると釈迦に説法みたいですので、話題提供してその後で皆さんに色々ご意見を伺いたいと思います。

講演内容

これからの50年が勝負

花粉症などでよく話題になる日本のスギ、ヒノキの人工林は戦後植えられたものが多いので、100年の森にするにはあと50年の関わりが大事である。

明治35年に始まった六甲山の森づくりに、「森林美」への造詣が深かった本多静六先生が関わったのは、ひとつの大きなポイント。

六甲山の北側に帝釈丹生山系たいしゃくたんじょうというのがある。里山としての利用が昭和30年代まで続いていたのは帝釈丹生の方である。大都市がなかったら六甲山も丹生山も同じような山だったろう。

六甲山はハゲ山だった

神戸は、京都と西国九州を結ぶ交通の要所であるため、度々戦乱に巻き込まれ街が焼き払われた。その戦災復興のために木材が使われ、過剰な需要に自然の回復力が追いつかなくて山が荒れていった。だからすでに戦国時代には六甲山は禿山だったといわれる。その後も農用林いわゆる里山として過剰な利用が続いた。



禿山の植林



再度山の現在

レクリエーション利用のはじまり(明治中期)

六甲山では禿山に植林を始めるのと同時期にレクリエーションの利用も始まった。その活動の中心は神戸ゴルフ倶楽部を日本最初のゴルフ場として開拓したグルームさん。彼はまた、山荘に來た兵庫県知事や神戸市長に、荒れた山への植林の必要性も説いた。

植林の始まり(明治35年)

明治30年ごろ、国土保全に必要な基本的な法律が整い、砂防法や森林法というような法律が時期を同じくしてできた。完成した布引の貯水池に大雨の度に土砂が流れ込むのを防ぐために、そして水源地を緑化するために、明治35年に六甲山の再度山付近で計画的な砂防植林が始められた。

昭和13年の大水害

昭和13年の阪神大水害が、国土交通省の六甲砂防事務所ができるきっかけになった。まわりの村が神戸市に編入され、旧村の山林が神戸市に移管された時期である。昭和12年に神戸市有山林を所管する部署が拡充されて、山林管理の体制が充実しかけたころに大水害が起こった。その後始末に追われているうちに戦争の影響が色濃くなっていった。明治半ばの第1期の造林後は、大水害まで手入れ刈りと補植以外あまり手入れがされない状態が続いたようである。

大規模植林(戦後)

戦争後、昭和36年頃から、マツクイムシの被害地の植林が始まり、昭和42年から森林改造事業という大規模な植林が始まった。毎年大面積に植林を続けた時代が10年程続き、いまは樹種転換が主になっている。これは戦災復興のためにスギ、ヒノキという建築材の植林が奨励された国の政策が背景にあった。



植林され森に

美しい森づくり

本多先生の時代にもいろんな木を混植して、街から見ても四季が感じられる、山の中に入ってもレクリエーションを楽しめる気持ちの良い森を作りたいという考えがあったのではないかな。現在も神戸市の森林整備は、昭和42年から植えてきたスギ、ヒノキの間伐を行い、林の中に広葉樹を植えて針広混交林に変えてゆく作業を進めている。

ニセアカシアの処理作業

砂防造林のために植えられたニセアカシアの林は早く緑化するが、林の移り変わりがなく20年位経つと根こそぎ倒れることが多い。土を持って倒れるので、それが土砂崩れの原因になる。そのために春先から花が咲く頃に幹の皮をまるく剥いで立ち枯れさせる。しかし、結構労力のかかる仕事なのでなかなか進められていない。

利用の森にしよう

森を植えて育てるところから、さらに切った木を使って家具を作るなど、利用するところまでやる。ハイキングコースの補修や王子動物園のパンダが寝ている床にも六甲山の木を使っている。森で育てた木を、目に見える形で利用することになれば、六甲山の森が生活の中にも見えるものとなっていく。



六甲山の木を利用

市民の力が大きく影響

六甲山の場合は、常に緑化に市民の力というのが加わっている。(例：グルームさんやワーレンさんの私財提供。阪急百貨店の清水社長の呼びかけで六甲を緑にする会が発足、その寄付で行政機関が植林、六甲山緑化基金など。) そういう市民の力が常にバックになって六甲山の緑は育ってきている。裏を返せば市民の方々の六甲に寄せる思いが強い。

質疑応答

様々な意見が飛び交った

- ・六甲砂防事務所の星野所長にグリーンベルト構想や防災についての質問が集中した。
- ・ニセアカシアの有用性や木を切って森林に光を入れることが論議された。
- ・遠藤さんから間伐材の利用について提言があった。
- ・街中のイノシシと共生するという意見もあった。



質疑の様子

卒業生の森の提案

六甲山をどう活用するかということを考えていきたい。学習の森には、葺合中学や生田中学などの卒業生が植えた森がある。彼らが大人になって世界中飛び回るようになったときに、神戸に帰って故郷意識を感じる一番の元になってくる。県も市も良く考えて、基本的な六甲山をどう活用して思い出の故郷にするかということを考えていくべき。(白岩)

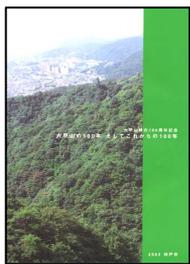
高橋さんのまとめ

六甲山は今後もレクリエーションの山として、都市の背景の山として整備を続けていくことになる。100年後に良い六甲山が残ったなあと言われるようになったらいい。市民懇話会の座長の田辺真人先生から「一緒に六甲山緑化200年史書こう」と言われているので、あと100年間は死ねない。

※お詫び：高橋さんが用意されたパワーポイントの資料を映写できませんでしたことをお詫びいたします。同時に、講演準備の間、アジサイの話をして頂いた米村さんにお礼申し上げます。

◆配布資料：

- ・『森林美学』からの「解題」部分
- ・頒布資料（500円以上の寄付）『六甲山の100年 そしてこれからの100年』 → 一六甲山緑化100周年記念報告書一（お問い合わせは下記）



神戸森林整備事務所（「森の小学校」併設）
所在地：〒651-1102
神戸市北区山田町下谷上中一里山 再度公園内
TEL：078-371-5937 FAX：078-371-1087
<http://www.portnet.ne.jp/~patapata/ms01.html>

◆参加者：32名（順不同・敬称略）

高橋 敬三	山西 一平	小笠原晋子	八木 淨
山田 良雄	内海 薫	大谷安規永	中川貴美子
遠藤 博	河本あゆ子	星野 和彦	西川智恵子
小野 律子	河津 幸生	松島 朋子	前田 清子
松井 光利	釜谷 正博	三上加津子	岩井百合子
青木 光子	高橋 直樹	堂馬 英二	西谷 実
富永 邦夫	前田 和子	前田 節子	米村 邦稔
宮島 敦子	白岩 卓也	岩浅 敬由	鈴木 武

◆懇談会：

講演参加者の約半数の方が引き続いて懇親会に参加された。初参加の方からは六甲山に関心を深めたという意見があった。

アリマノウマノスズクサの研究者である白岩さんと記念写真を撮られたり、鈴木さんから「ひととはくキャラバン」の展示の紹介もあった。

講演テーマから発展して、同席の専門家のお話に親しむこともでき、多様な交流の場になった。(記録協力：高橋直樹)



河本さん

山西さん



アリマノウマノスズクサを白岩さんで



懇談会の風景